

第6学年 道徳学習指導案

日 時：平成29年11月7日（火）

場 所：6年1組教室（3階）

授業者：花井 眞

児童数：30名

1 資料名：「トオル」

（出典：広島県教科用図書販売株式会社）

公正、公平、社会正義 C-（13）

2 指導の立場

（1）児童の実態

本学級では、誰とでも仲良くしなければいけないことを理解し男女共に仲良く学校生活を送っている。しかし、ラインのグループが複数存在し、疎外感を感じているだろうということにまで思いが寄せられていない。

誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正公平な態度で接していく心情を育てたい。

（2）本時の指導について

【年間指導計画の工夫】

誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正公平な態度で接し、正義の実現に努めるため、情報モラル（ネット情報等を公正公平な態度で判断する）と関連づけた指導をする。

また、授業後に本時の内容と関わるソーシャルスキルトレーニングを行い、望ましいスキルを身に付けさせる。自己の振り返りとソーシャルスキルのワークシートを用いて、評価につなげたい。

【指導方法・指導形態の工夫】

対話的な学びとして、主人公の心の弱さや葛藤について、ペア交流で考えさせ、自分や仲間の考えの相違について伝え合うことができるようにする。主発問では、自分の考えを述べたり、仲間の意見に自分の考えを付け加えたりする機会を設ける。

【学習環境の工夫】

主人公の気持ちを考えやすくするために大型テレビにイラストを拡大して提示する。

3 本時のねらい

いじめられている仲間に対して見て見ぬふりをして、何もしないということは仲間を見捨てることと同じであると気づき、いじめを見て見ぬふりをせず、いじめられている仲間を助けようとする道徳的心情を育てる。

4 本時の展開

※ICT活用について

	過程の目標	主な学習活動	指導・援助
つかむ	○本時のねらいとする価値が分かる。	1 今までに、自分だけ取り残されてしまったり、みんなの輪に入れず、寂しい思いをしたりしたことはないか。 ・人数が多くなるからと遊びに入れてもらえなかったことがある。	・経験があるかないかのいずれかに挙手をさせる。また、そのときの思いについて教師の意図的指名で話をさせる。
ふかめる	○あらすじをつかみ、主人公の気持ちに共感する。	2 資料の範読を聞く。主人公の気持ちが変わるところに赤線を引いて交流する。 <u>ぼくは、むっとして言い返した。</u> ・主人公はトオルに相談しても無駄だと思った。人も気持ちも分からないから。 <u>ぼくは、その場から逃げた。</u> ・主人公は怖くなった。自分もいじめられると思った。 <u>このままでいいのか。</u> ・主人公は、トオルは悪くないと思っている。でも、逃げた。どうしていいかわからないでいる。	・児童が全体交流の場で、主人公の気持ちに共感した場面について、話すときには黒板の場面絵を提示しながら、場面の様子をつかませる。 ・主人公の気持ちについて、考えたことを交流し、主人公の心の弱さに共感させる。
	○主人公の心の弱さに気付くことができる。	3 主人公の気持ちについて考える。 ○「別に、通りかかっただけだよ。」とその場から逃げ出した主人公はどんなことを考えていたのか。ペアで話し合ってみよう。 ・トオルと友だちといたら僕もいじめられるかも。 ・このまま、トオルと話さずにいよう。明日にしよう。 ・トオルのことは友だちと思っているけど、今は言えない。 ・なんで、こんなことを言ってしまったのだろうと後悔している。	※大型テレビに主人公が葛藤している表情の場面絵を拡大して映し、主人公の気持ちを考えさせる。 ・ペア交流で話し合ったことについて、全体交流させる。
	○トオルがいじめられている理由を知り、動揺する主人公の気持ちに共感することができる。	◎「このままでいいのか。」「ぼくは、ぼくに問いかけ続けた。」ぼくは、どんなことを問いかけ続けたのか。 ・ぼくに無視しろと言ってくれたのは、トオルだ。悪いのはあいつらで、トオルは悪くない。そんなトオルをぼくは知らないふりをした。でも、今度トオルに話かけて謝りたい。もう逃げたくない。 ・あいつらに、いじめをやめろと言えるだろうか。でも言わなければ。	※大型テレビに主人公が自分に問いかけ続ける場面絵を拡大し映し、主人公の気持ちを考えさせる。 ・全員に考える時間を2分間とり、その後全体交流させる。
まとめる	○主人公が自分の心の弱さを乗り越えようとする場面で、主人公の立場になって望ましい言動を考えることができる。	4 自己を見つめる。 「これまでの自分を振り返り、これから自分はいじめにどう向き合えばよいかを考えよう。」 ・今までは、いじめかなと思って、なんとなく見ていた気がする。でもそれは、苦しんでいる子に何もしないことになる。いけないことはいけないといい、仲間を助けたい。	・これまでの自分の姿を振り返りことができるようにワークシートに記述させてから、全体交流をさせる。
	○いじめを許さないという気持ちをもつことができる。	5 教師の説話を聞く。 ・いじめられていたときに、仲間の一言に助けられた話をする。	・説話では、仲間助けられた「やめや！それ、いやがっているよ！」という言葉を書用紙で提示し、いじめを許さない心情をもたせる。

## あなたならどうする？

6年（ ）番名前（ ）

### チャレンジ1

「くつ箱に入れていた花さんのくつがなくなりました。だれか知っている人はいませんか？」と先生が言いました。実は昼休みに校庭から帰ってきたときにいっしょに遊んでいた仲間数人が相談して、かくしていました。また、その夕方、ラインで「そのことを言わないように。」とクラスの全員に連絡がありました。先生だけが知らない・・・  
次の日、学級で話合いとなりました。でも、・・・

あなたは どうする？ 直接何もしていないが・・・ただ知っているだけ。

- 1 何も言わない。
- 2 こっそり返す。
- 3 手をあげて言う。
- 4 あとで先生に言う。

理由？

### チャレンジ2

人と違う意見を言う勇気が出ないときに使ってみたい解決方法を1つ考えよう。(班で話し合おう)